

# 「神との平和を持っています」

## ローマ5：1

堀田修一 22・10・16

ローマ人への手紙の背景。

1. 著者：パウロ。
2. 執筆年代：AD57年頃。ローマ皇帝はネロの時代。
3. 執筆場所：コリント。
4. 執筆事情：ローマの教会は異邦人キリスト者の数が増し、ユダヤ人キリスト者とのトラブルや分裂の要因があった。パウロは、その解決のために、イエス・キリストの福音とは何かをどの手紙よりも深く教理的、体系的に示し、ユダヤ人と異邦人、すべての民族の違いを超える福音の力と神の恵みの素晴らしさを知らせ、そして、この福音に一致団結して生きる堅固な教会形成を願って、この手紙を御聖霊により書いた。
5. この手紙全体の主題：「私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシャ人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。福音には神の義が啓示されていて、信仰に始まり信仰に進ませるからです。『義人は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです」ローマ1：16, 17。
6. 特にローマ5—8章は、新約聖書全体の中で最も深遠で、最も輝かしい章である。本日のみことば「こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています」5：1。ローマ3：21からずっと信仰義認について語られている。人が救われるのは、人の努力や善行によるのではなく主への信仰による。私たちはその素晴らしい救いを無償で受けたのです。この世でも価値があるものに大金が支払われる。主の救いは全世界のお金を集めても買えないもの。その最高に価値のある救いを神は、主の十字架の恵みで、無償で下さる！

I 「こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています」5：1の「神との平和」とは何か。それは、神との生きた回復された関係による平和。信仰義認による最初の結果は、神との関係の中に現れる。私たちの人間の罪ゆえに破壊された神との愛と正しい関係が回復し、親しく交われる（永遠の命の恵み）、それが真の救いの最初の結果、結ぶ実です。私たちは、聖書全体から教えられることは、私たち人間が直面する問題は、すべて私たち人間が神から離れた、関係が壊れた結果だという真理です。それ故、真の解決は私たち人間が、神のもとに立ち返ることです。神との関係こそ回復される必要があります。神との関係さえ回復するなら、直面している諸問題は解決されて行きます。神が解決の力と愛と判断力を与えられます。諸問題への主のお答え＝「まず神の国（問題ではなく神に心を支配していただく）と神の義（神のみこころ、神との正しい関係）を求めなさい。そうれば、これらのものはすべて、それ（神との生きた関係）に加えて与えられます」マタイ6：33。神を信じる信仰にも様々な動機、目的があります。自分の目の前の利益のために信じたり（御利益宗教）、自分の野心を成し遂げるために神を利用する信仰もあります。しかし、主への信仰により義とされる（神との関係が回復される）という真の救いの恵みを聖書と御聖霊により私たちが本当に理解するなら、間違った新興宗教、洗脳、カルト的な信仰（真の神ではなく、人間の教祖、組織に支配される信仰）の誤り

に気づかされます。主への信仰により義と認められる私たちは、神との平和な関係を確立する恵みをいただくのです。信仰義認が最初に私たちにもたらすのは、神との関係が生きた新しいものに変えられる恵みです。

Ⅱ 平和の関係とは。信仰義認の結果として確立される神との関係をパウロは、「神との平和」と言います。平和とは、二者の間に争いがなく、一致している状態。主の十字架の恵みを信じる信仰により「私は神との平和を持っている」と確信する人は、信仰義認を良く理解した人です。その真の信仰も理解も御聖霊が与えて下さいます。自分の善行によって義と認められ、救いを得ようとする人々の特徴は、この真の平和を知らないこと。「エホバの証人」と呼ばれる人々は、布教に熱心ですが、心の奥底に不安を持っています。この異端は、信仰による義を否定しているので、努力、つまり熱心に伝道する行いにより救い（黙示録の14万4千人に伝道の功績を挙げた人が入る救い）を得るように教え込まれている。ある意味で信者の方々は犠牲者である。※黙示録7：4，14：1，3の「14万4千人」の真の意味は、民族的なイスラエルを超えた神の民全体を示しています。この数は、具体的な人数ではなく、象徴的に神の民全体を示している。黙示録において数字は象徴的に用いられている（岡山英雄師の黙示録注解）。聖書の間違った解釈は際限のない律法主義に支配されていく。そこから真の平和、平安は生まれません。真の平和、平安が生まれるのは、ただ、主イエスの十字架の完全な贖い、償いの故に、この主を信じる者が、無償で義と認められる（すべての罪が赦され、神との関係が回復する）というみことばを正しく信じる時のみです。真の平和、平安はそのとき私たちに与えられます。この神との平和は、決して一時的、感情的な心の平安ではなく、客観的な事実、主の十字架の動かない事実の恵みに土台を置いている。主の十字架の死が、私たちから神の怒り、律法ののろい、神の敵意を取り除き、私たちは神との永遠の平和な交わり（永遠の命）の中に入れられたのです。

### Ⅲ 「神との平和」を豊かに持ち続ける秘訣

1. 良心のとがめから、又は悪魔の訴えに惑わされないようにみことばに立って祈り続ける。私たちが自分の罪を神に告白し、神は、主の十字架の血の恵みで完全に赦されているのに、私たちの良心は私たちを責め続けるのです。悪魔、サタンも責め、訴える。黙示録12：10。「おまえが神に赦され義と認められているのは本当か。主を信じるだけで大丈夫か。おまえの行ないや心の中は罪でいっぱいではないか」と。良い良心もあるが、間違った良心と悪魔の攻撃に打ち勝つためのみことばの武具＝罪や悪を少しも反省させず神に自分の罪を告白しない、罪を認めない誘惑に会うとき→
  - ①「もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちには真理はありません」Ⅰヨハネ1：8。「自分自身を吟味して」Ⅰコリント11：28。
  - ②素直に反省し自分の罪を神に告白し赦しときよめをいただこう。「もし私たちが自分の罪を告白（原語：〔罪を〕承認する、認める、白状する、告白する、打ち明ける、率直に言い表す、聖霊がそれは罪ですという指摘に「同意する」）するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し（主の十字架の贖いで完全な赦しが完成しているため）、私たちをすべての不義からきよめてくださいます（主の十字架の血と御聖霊の聖化により）」1：9。
  - ③その後も、自分の良心と悪魔が、「おまえは神に赦されていない」と責め続けるとき、私たちに赦しの平安を与えるみことば→「神はキリストにあって、この世をご自分と和解させ、背きに責任を人々に負わせず、和解のことは私たちに委ねられました」Ⅱコリント5：1

9。「神は…私たちのすべての背きを赦し、私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました」コロサイ2：13、14。神に真実に罪を告白する私たちへの神のみことば「わたしは、もはや彼らの罪と不法を思い起こさない」ヘブル10：17。

私たちの弱さは、人を赦したつもりでも、又思い起こし責める。神の赦しは完璧。自分がまず神に赦されているように、隣人を赦せるように祈りたい。

2. 神との交わり(みことばと祈りの時)を大切にし、神との交わりを喜び楽しむ。私たちは、主を信じる前は、神との交わりを持ちたくても、偉大で聖なる愛の神に近づく事ができない者でした。自分の罪の故に、神との幸いな交わりができませんでした。しかし、今、主の十字架の恵みの故に、神と私たちの間に何の壁もなく、平和の関係が主の恵みで確立したのです。神との幸いな交わり、礼拝をさらに大切にし、求めていきましょう。神との交わり(みことばと祈り)、礼拝を喜び楽しみにしている人こそ、神との平和を持っている人です。先ず神と交わる人は、人との愛と真実な交わりに導かれます。

3. 神との平和、親しい交わりこそ信仰義認がもたらす最高の実です。

祈り：神との平和を感謝します！